

小国六年	登場人物の相互関係や心情、場面について	組	氏名
補充	いての描写をとらえよう。	番	物語文を読む時は、登場人物と場面設定を整理して読みましょう。
	解説		

次の文章は、いちようの木であるおっかさんから、子どもたち（いちようの実）が旅立つ場面です。文章を読んで後の問いに答えましょう。

星がすっかりきえました。東の空は白くもえていようです。木がにわかになぞわしました。もう出発に間もないのです。

「ぼく、くつが小さいや。めんどうくさい。はだしいこう。」

「そんならぼくのとかえよう。ぼくのはすこし大きいんだよ。」

「かえよう。あ、ちようどいいぜ。ありがとう。」

「①わたしこまつてしまおうわ、おっかさんにもらった新しい外套がいたずが見えないんですもの。」

「はやくおさがしなさいよ。どのえだにおいたの。」

「わすれてしまったわ。」

「こまつたわね。これからひじょうに寒いでしょう。どうしても見つけないといけなくつてよ。」

「そら、ね。いいばんだらう。ほしづどうがちよつと顔をだしてるだらう。はやくかばんへ入れたまえ。②

もうお日さまがおでましになるよ。」

「ありがとう。じゃもうらうよ。ありがとう。いっしょにいこうね。」

「こまつたわ、わたし、どうしてもないわ。ほんとうにわたしどうしましよう。」

「わたしとふたりでいきましようよ。わたしのときどきかしてあげるわ。ここえたらいっしょに死にましようよ。」

東の空が白くもえ、ユラリユラリとゆれはじめました。おっかさんの木はまるで死んだようになってじつと立っています。

とつぜん光のたばが黄金きんの矢のように一度にとんできました。子どもたちはまるでとびあがるくらいかはやきました。

北から氷のようにつめたいすきとおった風がゴーツとふいてきました。

「さよなら、おっかさん。」「さよなら、おっかさん。」③子どもらはみんな一度に雨のようにえだからとびお

りました。

「星がすっかりきえました」という文や「もうお日さまがおでましになるよ」といういちようの実の発言から、夜が

明けたばかり、つまり早朝だと分かりますね。

問一 この場面の時間帯はいつですか。次から一つ

選んで記号で書きましよう。

- ア 深夜
- イ 早朝
- ウ 真昼
- エ 夕方

(イ)

会話文が続いているときは、発言内容や会話をのりまわし、話のやりとりに注意し、だれの発言なのかをしっかりと読み取りましよう。

の女の子のほかの会話文を一つ探し、それぞれ

最初の七文字（かぎかつこもふくむ）を書きましよう。

「わすれてしま
「こまつたわ、

風景の描写は、その様子を想像しながら読みましよう。「東の空が白くもえ、ユラリユラリとゆれはじめました」という描写では、まだ太陽の姿は出てきておらず、空がだんだんと明るくなりはじめた様子であることが分かります。

問三 ②——線部「もうお日さまがおでましになるよ。」とありますが、太陽がのぼり、姿が見えたことが本文からわかります。その一文を抜き出し、最初の五文字を書きましよう。

と	つ	ぜ	ん	光
---	---	---	---	---

問四 冒頭で「もう出発に間もないのです。」とありますが、③——線部で「出発」という言葉を使わずに「とびおりました」と表現することによってどのような違いがありますか。

みんなで一緒に遠足に行くような明るい出発ではなく、「いっしょに死にましようよ」という発言などから、死を覚悟した暗い出発であるという違い

「いっしょに死にましよう」や「おっかさんの木はまるで死んだように」という表現から、明るい出発ではなく、死を覚悟した出発を表現したことが分かります。